

西徽山

（ひきさん） 教育家。天保十四年七月十六日備前國生れ、明治二十七

年（一月）十九日歿（一八九〇年）。舊姓霜山、諱毅一、字伯毅、幼名
介之助。別號一枝庵、一瓢居士、東洋學士、白雲居士、知樂草堂主人。
徽山吟稿、徽山居士、徽山樵史、徽山樵夫、徽山毅、開谷樵夫、鶴鵠
園、鶴鵠園主人等。大坂で篠崎訥堂に入門、歸郷後森田節齋の門人而
後村の養育者となる。明治一年邁清、つた岡山藩外交應接官、四年學
校督事、やがて女子教訓所開設の貢獻、九年參事會兼秘書事、十一年國會開
幕式典の典禮司として老院に提出、十四年岡谷實業長に就任。第一回衆議院議
員、第一回の公選。

『徽山遺稿』全二册（大正二年二月）曲虎先生）、『徽山先生の書簡』
(守屋座敏一編、昭和十一年十一月五日)岡山・岡山縣開谷中學校櫻鶴會
「開谷集稿」(一)。